

### 全作物共通

天気は数日の周期で変わり、暖かい空気が流れ込みやすく、気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並が多い見込みです。

- ①ハウス内温度の変動が大きくなるため、換気をこまめに行い適温を確保するとともに、過湿状態にならないように注意しましょう。
- ②強風や大雨に備えて、防風網の点検、ハウスの修理や補強、排水溝の掘り下げなど防災環境を整えましょう。
- ③病害虫の発生に引き続き注意し、適切な薬剤防除を行いましょ。薬剤防除の時間が遅くなると、薬液の乾きが不十分となるため、薬液が乾く時間帯に散布を行いましょ。
- ④余裕を持った作業計画を立て、健康状態を確認して作業を開始しましょ。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょ。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょ。
- ◆防虫ネット・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょ。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、令和4年8月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いしましょ。

## ■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【環境保全編】

### — 温室効果ガスの排出削減・ほ場への炭素貯留 —

- 農業機械、施設等の適切な使用で温室効果ガス削減
  - ・アイドリングストップ、適切な走行速度やエンジン回転数での作業実施
  - ・エアクリーナーの清掃、エンジンオイルの交換、タイヤ空気圧調整等による燃費向上
  - ・冷蔵庫や暖房の温度設定の最適化、ハウスの被覆の修繕
- 土壌管理の方法によるほ場への炭素貯留
  - ・堆肥や緑肥等の有機物の継続的な施用
  - ・ほ場に残すと病害虫が蔓延する可能性のある場合を除く作物残渣のすき込み
  - ・不耕起または省耕起栽培の実施

作物名

トマト・ミニトマト

病害虫  
生理障害名

うどんこ病

発生状況

少発生

発生時期

8月上旬～



発生の状況・要因

- ・一部ほ場で発生が確認されている。
- ・葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。
- ・発生が増加すると葉柄・果柄・へたなどにも発生する。
- ・20～25℃で、日照が少なく乾燥した条件で発生しやすい。

対策

- ・ほ場を乾燥させすぎない。
- ・初発が確認されたほ場は早めに薬剤散布を実施する。
- ・被害葉や果実は摘除し、残さはほ場外へ搬出する。

＜防除の一例＞

- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで  
トマト：4回以内、ミニトマト：2回以内
- アフェットフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内
- ハーモメイト水溶剤 800～1,000倍 収穫前日まで ー

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

トマト・中玉トマト・ミニトマト

病害虫  
 生理障害名

葉かび病  
 すすかび病

発生状況

少～中発生

発生時期

6月中旬～



葉裏のカビ

上：葉かび病

下：すすかび病

葉表の病斑（葉かび病）

発生の状況・要因

- ・下葉で、葉かび病、すすかび病の発生が見られている。
- ・両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。
- ・葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。

対策

- ・ハウスの換気に努め、下葉の摘葉により通気性を確保する。
- ・葉かび病は草勢が低下すると発生が増加するのでかん水不足や追肥遅れにならないように気をつける。
- ・発生蔓延後の防除は困難なので、予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬等による予防的防除に努める。
- ・発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤で防除を行う。

＜発生確認後の防除の一例＞（トマト・中玉・ミニトマト共通）

●トリフミン水和剤

葉かび病：3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内

すすかび病：3,000倍 収穫前日まで 5回以内

●ファンタジスタ顆粒水和剤

2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害  
生理障害名

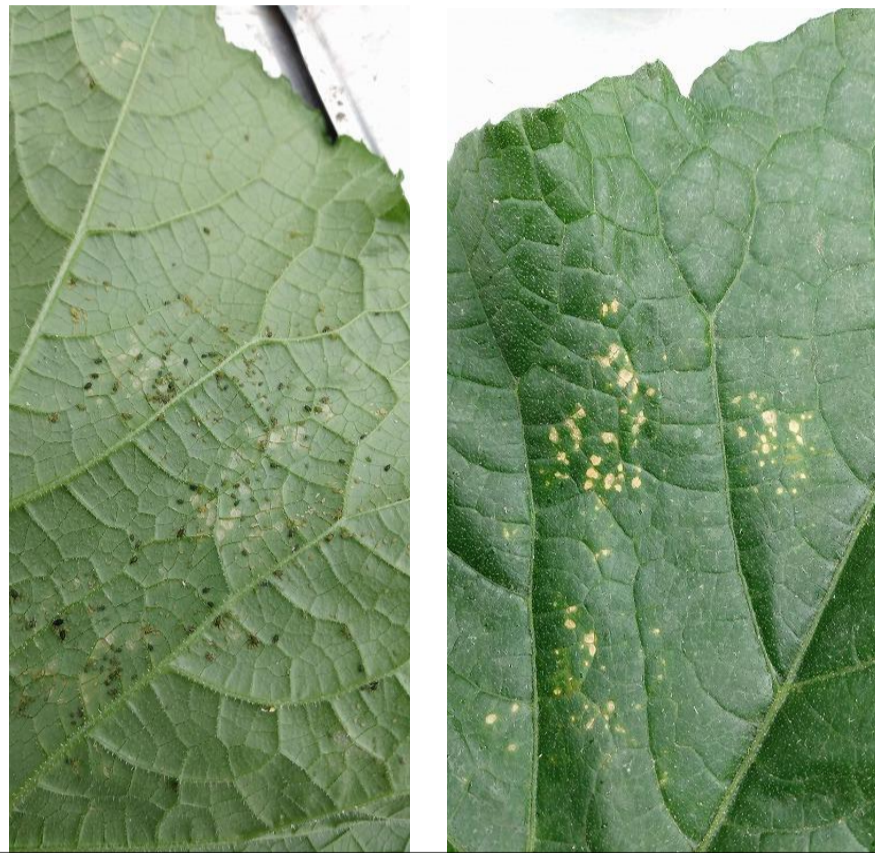
アブラムシ類

発生状況

少発生

発生時期

7月上旬～



写真：きゅうりに発生したアブラムシと被害葉

### 発生の状況・要因

- ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ・ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。

### 対策

- ・きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

〈防除の一例〉

- アドマイヤー顆粒水和剤  
5,000～10,000倍 収穫前日まで 3回以内

※施設栽培のみ使用可能

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害  
生理障害名

ハダニ類

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬～



きゅうりの被害葉

### 発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

### 対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤年1回の使用に止め、ローテーション防除を行う。

＜防除の一例＞

●ピラニカEW




2,000～3,000倍 収穫前日まで 1回

●カネマイトフロアブル

1,000～1,500倍 収穫前日まで 1回

※上記2剤は、ハダニの全ステージに効果がある

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫 生理障害名	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>コナガ成虫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コナガ幼虫</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>幼虫による葉の被害</p> </div>	
コナガ		
発生状況		
少発生		
発生時期		
5月下旬～		


### 発生の状況・要因

- 幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。
- 本年は幼虫の発生は比較的少なく推移している。
- 8月下旬は幼虫の発生は減少傾向である。

### 対策

- ほ場周辺の雑草をこまめに除くことで、ほ場に飛び込む成虫を軽減させる。
- 侵入口となる隙間を作らないように防虫ネット（目合い1.0mm）を設置する。
- 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。
- ジアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

<b>作物名</b>	<b>パセリ</b>		
<b>病害虫 生理障害名</b>	かびに覆われた葉		
うどんこ病			
<b>発生状況</b>			
少発生			
<b>発生時期</b>			
7月下旬～	白色粉状のかび		

**発生の状況・要因**

- ・ 葉や葉柄の表面が白色粉状のかびに覆われる。
- ・ 28℃前後で、日照が少なく乾燥した条件で発生しやすい。
- ・ 8月は発生が平年より少ないが、今後も注意が必要である。

**対策**

- ・ ほ場を乾燥させすぎない。
- ・ 発生前から予防的に薬剤散布を実施する。
- ・ 発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。

＜防除の一例＞  
 （発生前に7日～10日間隔で散布）

●クムラス	500～1,000倍	—	—
●カリグリーン	800～1,000倍	収穫前日まで	—
（発生初期）			
●アフェットフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内

**※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。**